

伊方原発再稼働【社説】 - 徳島新聞社

甲第^B
262
号記

8月11日付 伊方原発再稼働 急がず住民の理解求めよ

四国電力があす、愛媛県伊方町の伊方原発3号機を再稼働させる。当初は7月下旬の再稼働を目指していたが、1次冷却水ポンプにトラブルが発生し、約半月遅れていた。

再稼働後、出力を上げて調整運転を行い、9月上旬に原子力規制委員会の最終的な検査を受けて営業運転に入る。

東京電力福島第1原発事故を踏まえ、原発の安全面を危惧する市民団体は、再稼働の中止を求めている。ポンプのトラブルは、住民らに不安と不信感をもたらした。

四電は再稼働を急ぐのではなく、いま一度、安全対策について広く住民の理解を得る努力を重ねるべきだ。

福島原発事故を受けた原発の新規制基準の施行後、再稼働するのは九州電力川内原発1、2号機（鹿児島県）、関西電力高浜原発3、4号機（福井県）に続いて、伊方3号機が5基目だ。

高浜原発は、大津地裁の運転差し止めの仮処分決定を受けて、運転を停止している。

伊方3号機が再稼働すれば、プルトニウム・ウラン混合酸化物（MOX）燃料を使ってプルサーマル発電を行う唯一の稼働原発となる。

四電は、トラブルがあった1次冷却水ポンプの部品交換作業を完了し、正常に動くことを確認したとしている。

もう、他にトラブルが起きる恐れはないのだろうか。

伊方原発の近くを通る中央構造線断層帯への懸念も強まっている。4月の熊本地震では中央構造線の延長線上にある断層が動き、震度7の揺れを2回引き起こした。

四電は、中央構造線と別府-万年山の両断層帯が連動して揺れた場合を想定。伊方3号機に650ガルの揺れに耐える安全対策を施しており、原子炉容器など重要施設は千ガルの揺れにも対応できるとしている。

それでも、原発の安全性に関する国民の目は厳しい。

現在、唯一稼働している川内原発についても、先月初当選した三反園訓（みたそのさとし）鹿児島県知事が「熊本地震を受けて原発に不安がある」として、九電に一時停止を要請する考えだ。

今後の成り行き次第では、伊方原発が唯一の稼働原発になる可能性もある。

2012年1月に伊方原発が定期検査で発電を停止した後、夏のピーク時でも電力不足は起きなかった。火力発電などで賄ったからだ。

再稼働には、電力自由化の時代を迎え、四国外への売電を増やすなどして収益力を高める狙いもうかがえる。

昨年10月、再稼働に同意した愛媛県の中村時広知事はきのう、避難計画の充実を図る考えを示した。防災訓練で新たな課題が見つかり、今年7月に避難計画の一部を見直したばかりだ。本来、再稼働よりも十分な避難計画づくりが優先されるべきである。

伊方原発を巡っては、再稼働の差し止めを求める仮処分の申請などが相次いでいる。司法の判断にも注目しなければならない。